

(様式6-1) 社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	裾野駅西地区における市街地環境整備		
計画の期間	平成27年度～平成31年度(5年間)	交付対象	裾野市
計画の目標	老朽化した家屋が密集し、居住環境・防災面に多くの問題を抱える裾野駅西地区において、都市計画道路、区画道路、公園、水路等の整備を面的に行い、宅地の利用増進を図り、豊かな自然と魅力的な環境を備えた市民の交流拠点とする。		

計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業の実施により、家屋が移転し老朽住宅を減少させ、防災上の危険性が高い密集市街地を改善させる。</li> <li>防災上の危険性が高い狭小道路の割合を減少させる。</li> </ul>
----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考	
	当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H31末)		
① 区域面積に対する施工済み面積の割合を算出する。 施工済み面積率=(施工済み面積)/17.6ha	15%		23%		
② 全体道路延長距離に対する4m未満の延長距離の割合を算出する。 狭小道路率=(4m未満の道路延長)/(事業区域内の道路延長)	44%		38%		
全体事業費	合計(A+B+C) 2,805百万円	A 2,805百万円	B 0百万円	C 0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C) 0%

静岡県社会資本整備重点計画における位置づけ			
第2期(H20~H24)		第3期(H25~H29)	
分野名		分野名	
目標名		目標名	
指標名	目標値(H24)	指標名	目標値(H29)

**事後評価**

1. 交付対象事業の進捗状況 (○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成見込(備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄) -:その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等))  
(計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●:本計画の期間中に完成 ▲:本計画の期間終了後に完成見込(備考欄に完成予定時期を記入、未定は空欄))

**交付対象事業**

A1 道路事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	進捗状況	備考
											H27	H28	H29	H30	H31			
84-A1	街路	一般	裾野市	直接	-	区画	改築	裾野駅西地区((都)平松新道線外)	区画整理 A=17.6ha	裾野市						1,731	△	R11年
84-A2	都再区画	一般	裾野市	直接	-	区画		裾野駅西土地区画整理事業	都市再生区画整理 A=17.6ha	裾野市						1,074	△	R11年
合計																2,805		

B 関連社会資本整備事業																		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	進捗状況	備考	
										H27	H28	H29	H30	H31				
合計																		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	進捗状況	備考
										H27	H28	H29	H30	H31			
合計																	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

(参考) 計画の成果目標を同一とする地域自主戦略交付金の交付対象事業

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<p>指標①：平成23年度より進めてきた事業の見直しは、平成30年度8月に事業計画変更を行い、平松新道線より西側区域に事業着手する準備が整った。区域面積に対する施工済み面積の割合は23%以上という目標を達成できた。事業の進捗により、老朽住宅を減少させ、防災上の危険性が高い密集市街地の改善を図ることができた。</p> <p>指標②：狭小道路率38%以下という目標を達成できた。事業の進捗により44%であった狭小道路率を36%まで下げ、道路網の改善を図ることができた。</p>			
II 定量的指標の達成状況	指標① 区域面積に対する施工済み面積の割合	最終目標値	23%以上	目標値と実績値に差が出た要因	平松新道線の西側の設計変更が、当初予定よりも前倒しで進捗し、事業計画の変更が行われた。それにより平松新道線より西側区域の整備に予定より早く着手することができたため。
		最終実績値	24%		
	指標② 4m未満道路の延長距離の割合	最終目標値	38%以下	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	36%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況					
3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>令和2年度からの新規整備計画における指標としては、効果発現を客観的に評価できるものとし、老朽化住宅の減少及び密集市街地の改善の割合、もう一点は、公共施設割合として防災上の危険性が高い狭小道路の割合を評価指標として策定したい。令和11年度の事業完了を目指し、事業進捗を図る方針である。</p>					
○事後評価の実施体制、実施時期					
事後評価の実施体制			事後評価の実施時期		
裾野市事業評価監視委員会設置要綱(平成27年裾野市告示第16号)に基づき、学識経験者を含めた評価委員会を開催。			令和元年度（整備計画最終年度の翌年度）		
			公表の方法		
			裾野市ホームページに掲載		